

* 異世界からの転生者
獣納太郎に瞬殺され捕虜となった
第七魔王ベール

魔族の身体を奪われ
只の獣人にされた挙句
アウメ地獄をキメられてしまい
完全敗北したかに思えたが
心までは折れていなかった

魔族復興の為
ここで負けるわけにはいかない
今日こそ魔王の強靱な精神を
見せつけてやる時だ

* 詳しくは過去の投稿「ケモノリ魔王が異世界転生者に
負けてモブじされるわけがない」をご覧ください

「どうだい元魔王様
新しい服の着心地は」

「ふんっ…どうせ音を
辱めるための衣装なのだろうっ」

「貴様ら人間の下卑た考え
などお見通しだ」

バンっ♡



「やれやれ酷いアクメ顔晒して
死ぬほどイキ狂った割に
まだ理性が残ってるとはな」

「はっ 舐めるなよ
例え身体はケモノになつたとしても
高貴なる魔族の精神までも
犯せると思うな」



「そうかいじゃあ こいつらでその強靱な
精神とやらを試させて貰おうか」

チキ

「なんだその貪弱な器具は
そんな物でこの魔王ベールが
屈すると本気で思っているのか？」

「この間のような極太ちゃんぽで
無い限りそうやすやすとは
感じたいせんぞ」

「やってみれば分かるさ」

「おっくツ…
まっまあ見かけよいは
やるではないか…ツ」

グッ

グッ

グッ

「だが所詮子供の玩具よ…
この程度ではとてもかも…」



ぴんぽんぽん♡

ぴんぽん♡

ぴんぽん♡

「おふんぽん♡♡♡」

ぽんぽん♡

ぽんぽん♡

ぽんぽん♡

「おやどうした元魔王様？
大口を叩いてた割にもう余裕が
なさそうに見えるが？」

「ばっ馬鹿を言うなッ
只の貧弱な棒如きッ
妾の膺で捻いつぶしてッ」



「ごきう♡♡♡♡」



「まッ待て二日やめろッ
こッこんな物でッ
イッイクなんてッ♡」

♡
ガッ♡

♡
グイッ♡
♡グイッ♡

♡ガッ♡
ガッ♡

♡
ギョ♡
♡ギョ♡

「そんな情けない事が
在ッてはならんのだッ
妾はまッ魔王なのだぞッ♡」

♡
ガッ♡

♡
ガッ♡

♡
グッ♡

♡
ガッ♡



「ぎゃあぎゃあうるせえぞ
メスウサギツオラッ
とつととアクメしろッ」

「おっふざけるなッ
イッてたまッるかあッ
グッうううッッッ♡」



「おッグううッ
グッグッグッ」

「グッグッグッ」

「グッグッグッ」

「グッグッグッ」

「おまんこ勝手にッ
グッグッグッ
グッグッグッ」

ベィベィベィ

「はは 相変わらず無様な
イキ顔だなメスウサギ」

「本当に貧弱なのは
お前のまんこの方だったな」

ガク

ガク

ビュッ

「グッうっう…ッ…
今回はたまたま調子が
悪かったただけだ…ッ」

「次も同じようには
ならんぞ…ッ」



「そりゃあ良かった
まだまだ器具は沢山あるんだ」

「次はせいぜい頑張るんだな」

おんおん

ズン

「なッ……くッ……とッ当然だ……ッ
見ておれよ……人間……ッ」

「早く次を入れるッこんな
モノには絶対に負けん……ッ」



数時間後



「うっぐぞ…イグッツ♡♡
まんこ…また負け…ッ
グうううイグッツ…ッ♡♡♡♡」

「結局一回も耐えれて
なかつたなメスウサギ」

「散々イキりちらした結果がこれとは無様極まりないな」



「そんなにイキたいなら
お望み通りイキ殺してやるよ
玩具に蹂躪される自分の雑魚穴
嘆きながらイキ死になッ」

「待つ待てッいッ今触るなッ…
もうこれ以上…ッ♡♡」

「わッ母のッ魔王としての…
いッ威厳が…ッ♡♡」

「何が威厳だそんなもん」



「おっほおッ♡♡♡♡」

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

「とつくにねえんだよ
馬鹿まんこがッ」

ズボッ♡

「おっおっううう
そっそっおっ
ぎっぎもちいいいっ♡♡♡」

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

「イグッイグッ
またイグううッ
玩具ッしゅっいいい♡♡♡」

「おおおッイッグッだめッこれッ
おっッー突き毎にッイグッ
いってるうッ♡♡♡」

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ガッ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ビッ

ビッ

ビッ

ビッ

ビッ

「ちよッまッおッ待つてえッ
いぎあぎてえッ
頭おかしくなるッうッ♡♡♡」



「オラッ死ねッ
獣以下の下品で無様な
メス穴痙攣させてイキ死ねッ」

「ごおおおッおッ
だめえええッッ
もおッいぎだくはないッッ♡♡♡」

「おおおッ許じごええッ
死ぬッアケメ死んじやううッッ
ごおおおッッ♡♡♡」

「ハッ
ハッ
ハッ」

「おひいっいぎゅッ
いつひえるッラッ
おまッおまんごおッッ♡♡♡」

「おひいっいぎゅッ
いつひえるッラッ
おまッおまんごおッッ♡♡♡」

「服従ッあぐめええッッ
ぎもちいいいいッッ
イグイグイグうッッ♡♡♡」



「あッ…おッ…おッ…
ほひッ…ほひいッ…ツツ♡♡♡」

ゴッゴッ



「おれをハニニ♡♡♡」



「はつようやく
メス便所らしい顔になってきたな」

「…ひゅ…ッお…ツツ♡♡♡」

パチャ
アッ

ガクガク

ゴボゴボッ

セリッ

「これからその便所まんこを
人間様の高貴な精液で
清掃してやるから感謝しなッ」

「…はッい……ツツ♡♡♡」

更に数時間後



「あんだだけ大層な口を聞いておいて
今日もちんぽでアヘアへ
言つてゐる姿が傑作だったぞ」

「じゃあなメス便器明日も
せいぜい無様に敗北着床しろよ」

「…あへえ…はひっ…
「がんばりましゅ…ッ…ッ…♡♡♡」

天竺



♥ DEFEAT END ♥















































